

## 慢性腎臓病(CKD)の新しい治療 SGLT2 阻害薬について

原泌尿器科病院  
腎臓内科 吉矢邦彦

SGLT2 阻害薬(商品名フォシーガ)は、腎臓での糖の再吸収を阻害することによって、糖尿病患者さんの血糖値を下げる薬剤です。しかし、最近の研究では、SGLT2 阻害薬が糖尿病だけでなく、慢性腎臓病(CKD)の治療にも有益であることが分かってきました。

SGLT2 阻害薬は、腎臓の尿細管で働き、尿中に糖を排出する効果があります。その結果、腎臓にかかる負担を軽減し、腎臓への保護作用があり、CKD の進行を遅らせます。この薬剤は、腎臓における炎症や線維化の進行を抑制する働きがあると言われています。SGLT2 阻害薬を開始して1年ほど経つと、CKD の悪化進行速度がゆっくりになることが分かってきました。

有効な薬ですが、SGLT2 阻害薬を使用する際には注意が必要です。一部の患者さんには副作用が現れることがあります。CKD の薬でありながら開始直後は腎臓の機能障害を起こすことがあります。CKD 治療において SGLT2 阻害薬が適切かどうかは、個々の患者さんの状態によります。また SGLT2 阻害薬だけでなく他の腎保護作用のある薬や食事療法との組み合わせが大切です。体調が悪い時は一時休薬することや脱水症に注意して十分な水分をとる事も必要です。eGFR が 45 未満の CKD ステージ G3b より進んだ症例に対して SGLT2 阻害薬の投与は効果判定や管理が難しく、腎専門医の関与が必要と思われれます。